

交 通 論 壇

発行所 (株) 交通論壇社 大阪市東淀川区豊里4-3-19 TEL(06)6328-2260

編集・発行人 小北 隆弘 <http://taxi.rondan.jp>

◇業界の克服課題は「守られるべき」論の強さと、外部の知恵に否定的な意識 大分大学、大井准教授が厳しい視点で講演—チームネクスト・セミナー

タクシー産業の次のビジネスモデルを探る事業者らで作る「チームネクスト」(天野清美代表世話人)の第5回セミナーが11月29日、北九州市小倉北区のホテルで開かれ、「総合生活移動産業創造の論点整理」をテーマに、産業の現状と課題に対し、理論的な考証を加え、今後の方向性を見出すことを試みた。

セミナーでは、三ヶ森タクシーの貞包健一社長が「タクシー学入門」と題し、タクシーの収益、運賃、賃金などを数値的に分析し産業構造の実態を把握することで、改善・改革の要点を浮き上がらせ、長期的な視野、正確の下に経営、制度の構築を果たすべきと論じた。

続いて、大分大学経済学部の大井尚司・准教授(交通論)が「公共交通と総合生活移動産業のあり方」について講演し、交通事業者の経営を取り巻く外的要因、内的側面を提示し、交通事業者の存在意義・役割を問いかけた。その中で大井准教授は規制緩和や制度変化後の経営環境への対応について、多くの事業者で経営が弱体化し後ろ向きの改善策に終始、マーケットの変化へ対応が後手、あるいは対応していないことや、制度変化への誤解があると批判的に分析。また、業界現状における内的側面として「守られるべき」論の強さを指摘するとともに、専門・プロ意識の強さが足かせとなり。他の業界との連携、外部の知恵を容れることに否定的と指摘した。さらに、タクシーの再規制については違法駐車や客引き行為、接客マナーの問題点を例示しつつ「やっちゃいけないことをやっていて『守って下さい』では虫が良すぎる。客がいることを完全に忘れているのではとさえ思うケースもある。駆逐されるべきものが残れば、産業全体の評価が下がり衰退することになる」と極めて厳しい意見を呈した。その上で大井准教授は「守られるため、存在意義を高めるためにすべきことを実行すべきで、新たな法によって『減らす・削る』ことでサービス改善のための適正化が謳われているが、本来はプロの提案と利用者の選択の結果であるべき」とし、「地域交通における存在意義を高める経営の実践、過去の事業者論理優先を廃し、マーケティング・提案・交渉・調整・連携能力などプロデュース能力を備えていくことが重要」と強調した。

<p>街のタクシーをめざして… 関西中央グループ 代表 薬師寺 薫</p>	<p>株式会社未来都 代表 笹井美智子</p>	<p>第一交通産業グループ 会長 黒土 始 社長 田中亮一郎</p>	<p>梅田交通グループ 代表 古知愛一郎 http://umeda-taxi.com</p>
--	------------------------------------	---	---